

留学体験記



ロサンゼルス空

神奈川大学外国語学部英語英文学科の菅沼拓人です。私は2022年の3月から9月までアメリカ合衆国に留学してきました。この体験談の中ではアメリカ合衆国の留学の魅力をお伝えしていきたいと思います。

はじめに、私はカリフォルニア州ロサンゼルス近郊の都市アーバインという街にあるカリフォルニア大学アーバイン校（通称UCI）に留学していました。大学のあるアーバインはとても温暖な気候で、滞在期間中に雨が降ることはほとんどありませんでした。加えて、学校の近くには美しいビーチや遊園地など多くの娯楽施設があり、学業だけではなく休日也非常に充実した生活を送ることが出来ます。

大学での授業ですが、私はESL (English as a Second Language) と呼ばれる英語を第二外国語として学習するコースに所属していました。レベルは1から6まで分かれており、比較的少人数の環境で学習することができました。学習内容は Listening & Speaking, Grammar & Writing, Reading & Vocabulary の4技能を中心としたクラスと、選択科目の中から Idiom を選択して学習

外国語学部 英語英文学科4年 菅沼 拓人

していました。授業は月曜日から金曜日の週5日間で午前中のみでした。放課後は次の日の予習や復習の時間に充てたり、大学のイベントに参加したりしていました。

留学中の滞在先について、クラスメートの多くは学外の寮やアパートを借りて生活をしていましたが、学校だけではなくその地に暮らす人々と生活を共にして、多くの事を学びたいと考えたためホームステイを選びました。ホームステイ先は学校からバスを使って40分ほどかかる場所でしたが、バスが遅延することはほとんどなく、またバス自体の治安もよかったため日本と変わらない環境で利用することができていました。肝心のホストファミリーですが、私のホストファミリーは元々中東のアラビア半島付近に住んでいたけれど、仕事の関係で世界中を転々として、アメリカに移住してきたバックグラウンドを持っていました。そのため、ホームステイ先での言語は主にアラビア語で、私と会話するときは英語に切り替えて話してくれていました。また、食事についてもホストファミリーはイスラム教を信仰していたため、ハラールフード（イスラム教の戒律によつ

て食べるものが許されている食べ物)が中心でした。多くの友人からは「アメリカに留学しているのに、アメリカ人のホストファミリーじゃなくて良いの?」という言葉かけられることがありましたが、私はアメリカの文化にも触れながら、イラム地域の食生活や文化にも触れることができました。非常に充実した滞在だったと今でも感じています。このように、様々な国の文化や食事がホームステイ先だけではなく、国全体で感じることができるのはアメリカ合衆国への留学の魅力の一つではないでしょうか。

留学は多くの楽しいアクティビティがある反面、自ら解決しなければならない課題も多くあります。具体的な例として環境への適応が挙げられます。これは私自身の話にはなりますが、アメリカ合衆国に到着した翌日に原因不明の蕁麻疹が体中に出てしまい、病院に行っても原因を特定することができず、専門の医療機関へ滞在期間中何度も通院をしました。ここで実感したこととして、たとえ自分自身が大丈夫だと思っていたとしても、身体は常に正直であるという点です。日本から外国へ行き、且つそこで一人で暮らすということは身体にとって大きな負担であることを忘れてはならないと思います。

しかしながら、大きな困難に直面しても、乗り越えることができたのはクラスメートやホストファミリー、周りの多くの人の支えがあったからだだと思います。お互いに助け合いながら、異国の地で絆を深め合うことは留学の醍醐味の一つでも

あり、人生の糧にもなる大切な時間でした。実際に私が留学中に現地の学生に多くの支援をしてもらったことを通して、私自身も留学生の役に立ちたいと決心し、帰国後は国際センターの外国人留学生支援バディとして活動してきました。

留学全体を通して、アメリカ合衆国で過ごした時間は私の人生に大きな影響を与え、「人とのつながり」というものを改めて実感することのできた非常に充実した期間でした。



ヨセミテ国立公園にて